

# 市民共同おひさまプロジェクトレター

No.16

(編集・発行) NPO法人かわさき市民共同おひさまプロジェクト

2019年2月1日

## かわさき市民共同おひさま発電所 10周年記念事業を開催

市民の寄付を集めて2008年8月に川崎市国際交流センターに設置した「川崎市民共同おひさま発電所」が完成して10年になるのを記念して、2018年9月30日に川崎市国際交流センター・レセプションルームで映画「おだやかな革命」の上映会を開催しました。

### 開会挨拶より

かわさき市民共同おひさま発電所の10周年記念として、映画「おだやかな革命」上映会を開催します。発電所建設では、たくさんの市民や事業者の皆さんに寄付をいただき設置しました。屋上4.32、天窓1.93、合計6.25kWの今では小規模な太陽光発電ですが、川崎で初めての市民発電所だったので、たくさんの方が見学に来て、他の地域の市民発電所に広がったりしました。

おひさまプロジェクトは10年間、川崎に自然エネルギーを増やすために活動をしてきました。

川崎で再エネを増やそうと活動する団体、環境活動団体が集まって2016年1月に作られた川崎地域エネルギー市民協議会におひさまプロジェクトも参加して活動しています。

地方は自然が豊かなので再エネも大きな可能性がありますが、川崎でもおひさまはサンサンとあるので、太陽光・太陽熱は大いに可能性があります。市民の力で再エネを増やしていきたいので、今後ご協力、ご参加よろしくお願います。

(おひさまプロジェクト代表：山下博子)

### 映画「おだやかな革命」

この映画の副題は「これからの暮らしを巡る物語」、会津、飯館村、石徹白(いとしろ)、西栗倉村などの再生可能エネルギーを活用した暮らしの風景を描いています。「豊かに生活するとは?」「地域を活性化するには?」との問題意識に対して、再生可能エネルギーを取り入れつつ、おだやかに変化する姿を映像を通して私たちに伝えてくれる映画でした。

(廣瀬健二)



上映会終了後の1号機見学会より

### おひさま2号機(太陽熱温水器)見学会



太陽熱温水パネルの前で説明

2018年度の川崎市環境リーダー育成講座の中で麻生区内の6つの環境の取組を見学し、おひさま2号機も見学しました。2011年に市民や事業者の皆さんに寄付をいただいて川崎フロンターレの旧クラブハウスに設置、2016年のクラブハウス建替えに伴いトイレの屋根に移設、おひさまで作ったお湯を浴室で使っていていただきます。太陽熱温水器は熱効率が良いし、家庭やお湯をたくさん使用する施設で使う自然エネルギーとして有効であることなどお話ししました。

参加者から、自然の光が温水に変わるのはとてもエコなのでもっと広がってほしい、地域の企業(川崎フロンターレ)と連携を図りながら進めていることが素晴らしい等の感想をいただきました。(山下博子)

# 川崎地域エネルギー市民協議会の2018年の活動報告

「川崎地域エネルギー市民協議会」は再生可能エネルギーの普及をはじめ環境関連の活動をしている7つの市民団体及び個人の集まりです。2018年の主な活動の報告をします。

ひとつは、この数年川崎市に公共施設の屋根貸しの要望をしてきましたが、2018年にはじめて川崎市で公共施設の屋根貸しが実現しました。10月に環境局地球環境推進室が「浮島処理センター」の屋根貸しを公募しました。

そこで「川崎地域エネルギー市民協議会」として応募することにしました。FIT（固定価格買取制度）価格18円/kWhの締め切りが迫る中、短期間で応募でした。海のそばという条件の中で、短期間で事業計画書をつくり、十分な検討ができなかった部分もありましたが、何とか

応募しました。4社が応募し、結果的に（株）太陽住建が採用されました。はじめて川崎市が屋根貸しをしたということは今後にとっても、前進だと思えます。

もうひとつは川崎で「再生可能エネルギーの促進に関する条例」をつくろうという取り組みです。地方で「再エネ条例」をもっている自治体はありますが、地球温暖化防止に早い段階から取り組んできた、150万都市である川崎市が「再エネ」条例を作って、再生可能エネルギーの普及を促進させることは重要だと思えます。各方面への働きかけや映画上映会、署名活動を行ってきました。2019年はそれを開花させられるようにしていきたいと思えます。

（松田享子）

## エネ庁データで読み解く太陽光発電の導入状況

経産省資源エネルギー庁（以下「エネ庁」）が公表したデータでは、2018年6月末時点でFIT制度による「住宅用」（10kW未満）の導入量が全国で120万件を突破しました。

FIT制度以前の分をあわせると現時点での累計は48GW突破していると思われま

す。平均容量は4.06kWになります。  
国内では再エネを「主力電源」に位置付けるようになりましたが、原発稼働もあり再エネは必ずしも順風という状況にありません。しかし世界の潮流（パリ協定の発効）は疑いもなく脱炭素（≒再エネ）に向かっています。経済原則や自然の摂理に反した我が国の行動は長く続くはずはありません。「都市部のPV」はこれからが本番です。

また、RE100（再エネ100%到達目標）を宣言する国内企業も現れています。

最近では、経団連も、昨年10月12日に「再エネの主力電源化に向けた取り組みの加速を求める」を公表しました。

FIT価格の低下に伴い、売電でなく「自家消費」の動きも加速しています。

### 住宅用の導入状況（稼働開始）

状況 FIT分 2012/7～2018/6

#### （1）全国

・住宅用の累計導入件数（FIT制度）は、約120.7万件で約555万kWです。従って、平均容量は4.60kWになります。2017年平均は4.96kWで、容量は増加傾向です。

#### （2）神奈川県

・住宅用（神奈川県）58,497件で、237,526kWで

す。平均容量は4.06kWになります。

#### （3）川崎市

・川崎市だけでもFIT後の導入量は40,900kWに達しています。

住宅用

19,884kW（5,071件） 平均：3.92kW/件  
非住宅用

21,061kW（687件） 平均：30.66kW/件

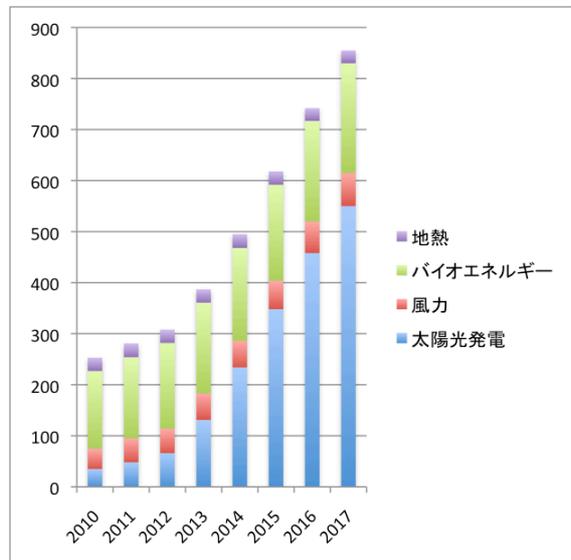
全国の累計で住宅用が13%、非住宅用が87%です。（石川潤一）

<用語>

1GW（ギガワット）=1,000MW（メガワット）=100万kW  
住宅用：10kW未満  
非住宅用：10kW以上

<出典> エネ庁のサイト

自然エネルギー（一般水力を除く）の発電量の推移（億kWh）  
更新日2018年12月10日



出展：エネ庁「総合エネルギー統計」より作成

# ソーラーシェアリング見学会 & 講演会に参加して



千葉市大木戸  
アグリ・エナジー1号機

定格出力 625kW(AC)  
発電出力 777.15kW(DC)  
耕作面積 約1万m<sup>2</sup>  
連結日 2018年3月27日

2018年11月17日の首都圏市民電力連絡会&見学会に参加しました。千葉市大木戸アグリ・エナジー1号機を見学しました。この農地はあとを継ぐ人がいなくて、地主が高齢で農業ができなくなり3年位耕作放棄地となっていました。地主の方は太陽光発電だけ設置しようとしていたのですが、まわりの農家から、耕作放棄地ができるとまわりの農地も荒れてしまうのでこまると言われていました。

そこで元千葉大生の馬上さんが中心になって農業法人をつくり、農業と太陽光発電を同時に行う、ソーラーシェアリングを行うことにしました。馬上さんは「農家を継ぎたいという人が減り、農家の高齢化が進み、耕作放棄地が増えています。日本の農業人口は急速に減ってきています。ソーラーシェアリングは農家の稼ぎをささえることができます。持続可能な農業とエネルギーを創出する取り組みです」と言われていました。

この農地ではにんにく、さつまいも、落花生等をつくっています。また夏イチゴの試験栽培も行っています。時々地域の人や子供たちが集まって農業体験をして交流をしています。地域との連携も深まっていると感じました。この見学会には大勢の人が集まりました。3. 11後全国に広がった、自分達の手で再生可能エネルギーをつくりたいという人たちのソーラーシェアリングへの関心の高さを表していると思います。

今後川崎でもソーラーシェアリングが出来ればと思っています。(松田享子)

## かながわソーラーシェアリング バンク登録

神奈川県がソーラーシェアリングバンクを始めました。ソーラーシェアリング(以下「SS」)は農地の上に太陽光発電を設置し、農業をしながら発電事業もするものです。

神奈川県の当該ホームページに応募した8団体の提案するシステムの特徴が掲載されています。SSをやりたい農家さんは支援してくれる団体を知り比較することができます。登録はイーパワー株式会社(おひさまメンバーの竹村さんが代表)が代表事業者になり、おひさまは共同実施事業者です。

SSは川崎市在住の長島彬さんが考案したもので、2013年に農水省が農地に建てる支柱部分だけ農地一時転用を認めたところから全国の農地で開発されてきました。農業収入と発電による収入で農家の経営を安定化するとともに、地球温暖化防止に貢献するものです。設置してくれる農家を見つけてぜひ実現させたいと思います。

川崎フロンターレ  
J1リーグ二連覇  
おめでとうございます!

ソーラーシャワーが、  
少しは選手の力になっていれば、  
うれしいですね!

# 11年目の1号機の発電量および自主点検の調査結果

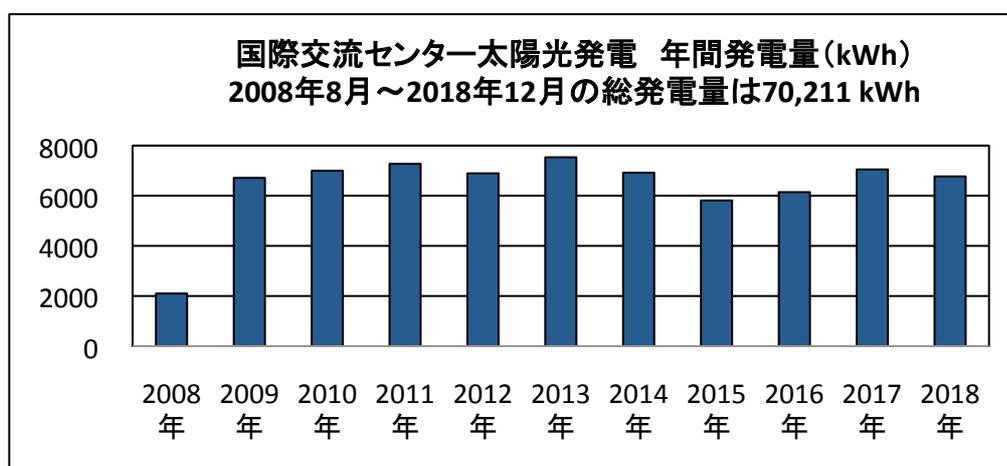
1号機はこの1年もトラブル無く元気に稼働しており、2018年の発電量は6,772kWhでした（発電量監視パソコンの値）。設備容量6.25kWで、1kW当りの年間発電量は1,083kWhとまますの成績です。

しかし昨年より1,128kWhより4%低くなっています。気象庁データによると東京の日射量は2017年より2018年が2%なくなっています。発電効率の低下かどうかは、今後も継続して見ていきます。

10年を経過したので、国際交流センターにご協力いただき、9月23日に発電所を点検させていただきました。

屋上パネルは間近に見られるので目視点検を行い、機械的には良好な状態が維持されていることを確認、サーモカメラでパネル表面の温度測定、集電箱で電圧など測定し異常無しでした。天窗パネルは屋根に近づけないので遠方からの目視点検のみでしたが、まじまじと見たのは今回が初めてで、施工方法の詳細を知ることができました。

太陽光発電所の劣化を未然に防ぐために点検は重要です。施工業者に依頼するのは費用のかかることもあり簡単ではないですが、市民発電所も公共施設発電所も発電量チェックや点検を励行していただきたいと思います。（山下博子）



## 第6回 おひさまフェス×星空上映会 に参加しました。

市民がつくった再生可能エネルギーを使ったお祭りで、音楽や映画上映などのイベントを二ヶ領せせらぎ館裏の河川敷で、2018年10月20日（土）に実施しました。

おひさまプロジェクトは、太陽光発電、ソーラー&手回し発電電車、ソーラークッキングを実演。ソーラー電車は相変わらず子どもたちに人気でした。サンオーブンで、ソーセージ焼きとラスクをしましたが、ソーラークッキングを初めて見てその威力に驚く方もまだ多くいました。「ミニ太陽光発電所を作ろう」の講座に興味ある方や、ソーラー発電に関心の高い方もいました。

夕方から雨の予報で、17時に急遽終了、残念ながら星空上映会は中止でした。場所柄か毎回水に縁のあるトピックです。

（大槻哲史）



### 【編集後記】

◎先日「2050年のかわさき」からバックキャストして、環境の計画を考えるワークショップに出ました。補助線として、今から30年前で一番変わったものの例えで「携帯電話」が話題になりました。話題にはならなかったのですが「再生可能エネルギー」も30年前は、全く期待されない電源でしたが、現在では「主力電源化を目指す」に変わっています。2050年には、100%再生可能エネルギーも夢ではないですね！（廣瀬健二）

### 発行人

NPO法人かわさき市民共同おひさまプロジェクト 代表 山下博子

メール:[info@kawasaki-ohisama.sub.jp](mailto:info@kawasaki-ohisama.sub.jp)

ホームページ:<http://kawasaki-ohisama.sub.jp/>

会費のお願い 個人会員 5,000円 賛助会員 3,000円

ゆうちょ銀行 普通預金

口座名 カワサキシミンキョウドウオヒサマプロジェクト

記号 10200 番号 97636821